

青果物



福岡県 直鞍農業協同組合 『鞍手のぶどう、いちごを海外へ』

【主な品目】

ぶどう、いちご

【主な輸出先国・地域】

シンガポール、香港

【輸出取組の概要】

- ◆ 地元特産のぶどう、いちごのブランド力強化。
- ◆ 現地百貨店等で試食販売、現地レストランでの提供。
- ◆ 生産者、行政との連携による販路拡大。

【輸出実績】（平成27年度より輸出開始）

	ぶどう(巨峰等)		いちご(あまおう)		出荷時期
	輸出額(千円)	輸出量(kg)	輸出額(千円)	輸出量(kg)	
平成30年度	721	236	11,260	6,753	ぶどう 8月～9月 いちご 11月～5月
平成29年度	1,300	977	413	87	
平成28年度	162	108	-	-	

【効果があった取組】

輸出用パッケージ表記を日本語にすることで日本の鞍手町をPRできた。

【輸出後に抱えた課題】

- 1 食習慣の違い(皮、種をそのまま試食)により、現地で受け入れられなかった。
- 2 現地販売価格は、国内販売価格の数倍であり、富裕層以外への販売が課題。
- 3 海外ニーズに応えるため現状の生産量では足りない

【生じた課題への対応】

- 1 定期的な試食会の開催、現地レストランでの紹介。
- 2 現地スーパーでの試食販売。
- 3 ピオーネ、種なしぶどうも平行して出荷する体制を構築。

【対応の結果】

- 1 現地シェフから「みずみずしい」という評判を得、少しずつ認知度が上昇。
- 2 輸出量が徐々に増加。
- 3 他品種出荷で時間がかかるとの生産者からの声があり、海外へのPRは慎重にして欲しいとの要望有り。

【今後の課題・展望】

- 1 ブランド化を進める為の生産量不足。ぶどうについては、海外ニーズに応えるため他品種との平行出荷の取り組み実施。
- 2 生産者等との協力体制の構築。
- 3 輸出先相手国の輸入規制への対応について輸出業者、行政と連携を図る。

【活用した支援・施策】

【ウェブサイト】 <http://www.ja-chokuan.or.jp>

【連絡先】 担当者名: 戸次、中村 TEL: 0949-32-3755



日本語表記のパッケージ



海外での販売コーナー



輸出に取り組む生産者園地